

## 平和祈念事業アドバイザーボード（第4回）議事要旨

1 日 時：平成23年2月17日（木）13：30～15：00

2 場 所：三番町共用会議所

3 出席者：（委員）

◎ 亀井 昭宏（早稲田大学商学学術院教授）

○ 杉浦 力（財団法人能率増進研究開発センター理事長）

黒沢 文貴（東京女子大学現代文化学部地域文化学科教授）

田久保忠衛（杏林大学名誉教授）

横堀 裕之（公認会計士）

[敬称略、五十音順。◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

北原 久 特別基金事業推進室長

佐藤 紀明 企画官

4 議事次第

（1）「平成23年度平和祈念事業の実施について（案）」の説明

（2）意見交換等

5 議事要旨

平成23年度平和祈念事業の実施について

資料に基づき、事務局より「平成23年度平和祈念事業の実施について（案）」について、説明が行われ、意見交換等が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

○ 組織体制について、資料館スタッフと本社の支援スタッフとの指揮系統を明確にすることが必要。

館長としては、館の顔としての役割を果たせる方を考えていただきたい。

○ 有識者による監修体制をとることはよいことだ。3労苦ひとりずつとするか、どのように選ぶのかが問題。中立を保てる方を選ぶ必要がある。

○ 図書コーナーがあるというのは非常によいことである。今後も新しいものを増やし、蔵書の検索システムを充実させることは重要。

コピーサービスを含め、図書資料の利用しやすい形を検討していただきたい。

○ （独）平和基金のときに行っていた電車の車内広告は、引き続き行っていただきたい。

- 来館記念品は、情報発信とともにコミュニケーション効果を持つ。魅力ある来館記念品を制作し、来館の誘発につなげてほしい。配布方法も工夫していただきたい。
- 学校への広報として、資料館の紹介DVDを送るということは結構なことではあるが、送りっぱなしではなく、校外学習等のスケジュールを立てる前に、声をかけていくことなどのフォローも必要である。
- 現在のジオラマ模型は一世代前のものである。現在の展示では若い世代に興味を持たせるのは難しい。費用の問題があるため、どこまで可能かわからないが、若い人たちに関心を持たせるような企画・提案を行っていただきたい。
- 語り部学校派遣について、資料館の紹介DVDの上映、展示資料のレプリカを持参し、実際に触らせるなどの工夫が必要である。
- 資料等の収集については、資料的価値も含め、収集方法を検討し、方針を決定することが必要である。
- 入館者数については目標値を達成するよう、オーバーホールを考え、PR方法等を検討するなど、さらなる努力をしていただきたい。

### (3) その他

今後の開催予定について、事務局より説明が行われた。

〔 本議事要旨は、総務省大臣官房総務課特別基金事業推進室において作成した速報版であり、今後、修正する場合がある。 〕